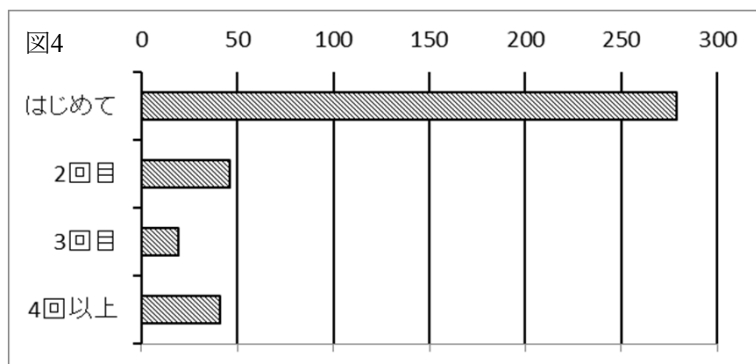
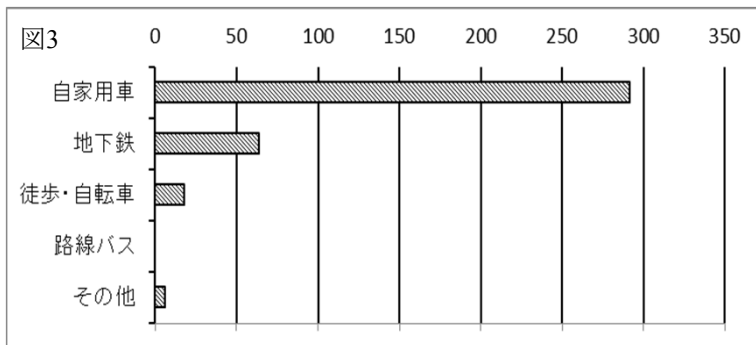
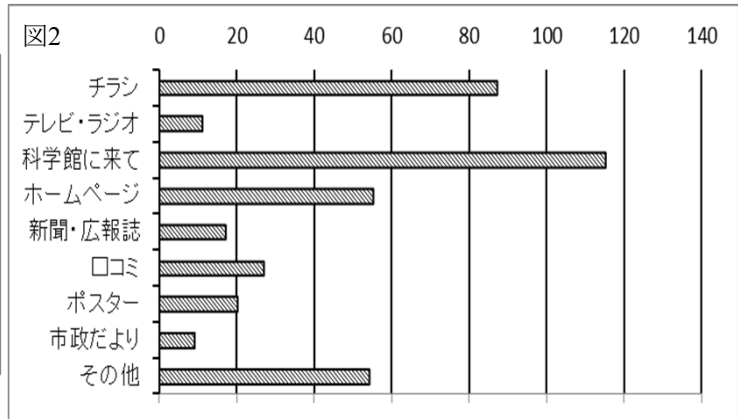
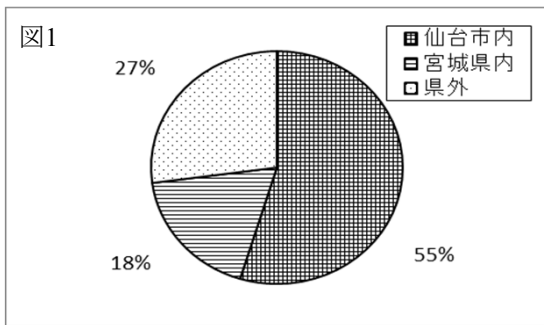


2013年度特別展「^{エレメント}エレメントハンター・元素の世界－元素を探し、未来を守れ！－」アンケート結果の概要

| | | | |
|-----------|---------------------------------|------|-----------|
| アンケート調査期間 | 平成25年8月14日(水)～平成25年8月20日(火) 1週間 | | |
| アンケート調査方法 | 用紙による記入 | | |
| アンケート対象者 | 小学生以上の来場者 400人 | | |
| (内訳) | 小学生 | 228人 | (回答者の57%) |
| | 中学生 | 46人 | (回答者の11%) |
| | 高校生 | 19人 | (回答者の5%) |
| | 大学生・一般 | 84人 | (回答者の21%) |
| | その他(未記入を含む) | 23人 | (回答者の6%) |

(1) 来館者の傾向



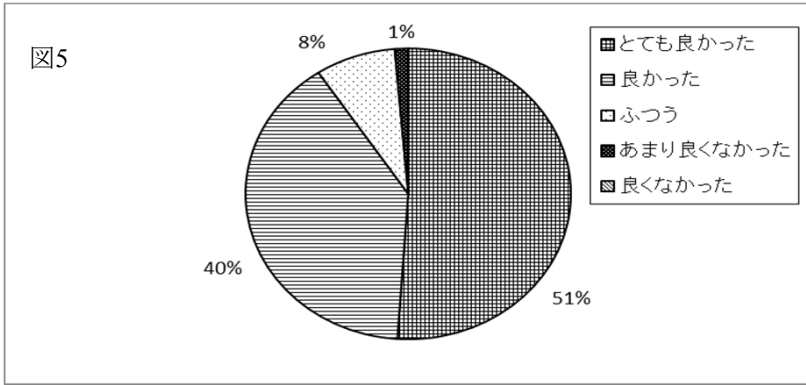
● 図1は、仙台市内・宮城県内・県外の3区分で見た来館者の割合を示している。約6割が仙台市内、約2割が県内、約3割が県外であった。帰省期間中ということも理由の1つだが、今回の特別展の特徴として、会期を通し県外からの来館者が多いことが分かる。今年度は県外から校外学習に訪れた児童生徒に団体向けのチラシを配布しており、その効果が現れたのではないかと考える。

● 図2は来館者が特別展をどのように知ったかについてまとめたものである。「科学館に来て」が最も多く、开展前に来館した際の告知で知った割合が多い。ついで科学館が宮城県内の小中学校に配布した「チラシ」を見て来館した数が多い。年間を通じて行っている自然観察会や工作教室では「市政だより」の比率が高いのに対して特別展では市政だよりの比率が低い傾向が認められる。

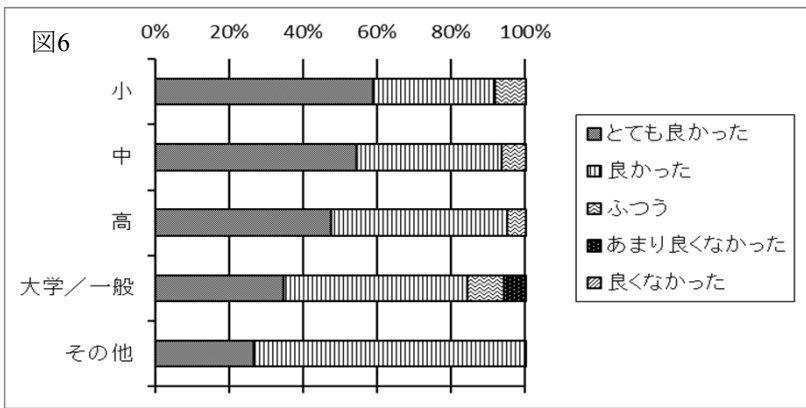
● 図3は来館者がどのような交通手段を用いたかを尋ねたものである。例年同様に「自家用車」が突出している。その一方で地下鉄利用者が例年よりも多い傾向がある。

● 図4はアンケートに回答した来館者が何回目であったかを尋ねたものである。初めてが多いのは当然の傾向として、4回目以上が一定数いるのはリピーターの存在を示している。

(2) 特別展の評価

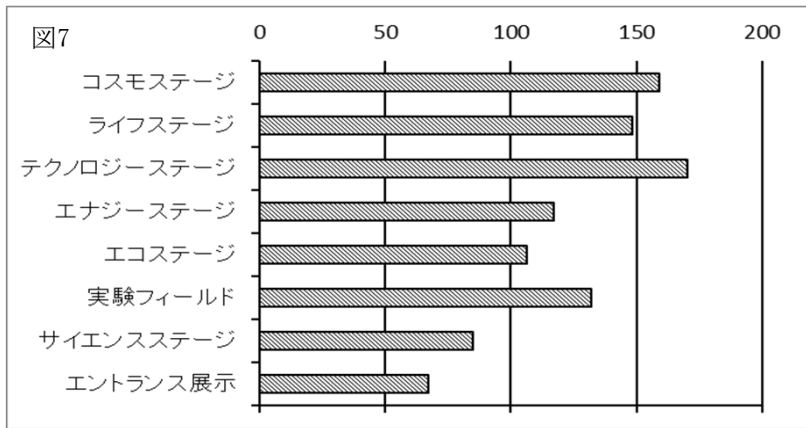


●図5は、アンケート回答者の特別展の評価を整理したものである。「とても良かった」「良かった」を併せて91%となった。この数値は例年に比べても高く、来館者の満足度の高さがうかがえた。



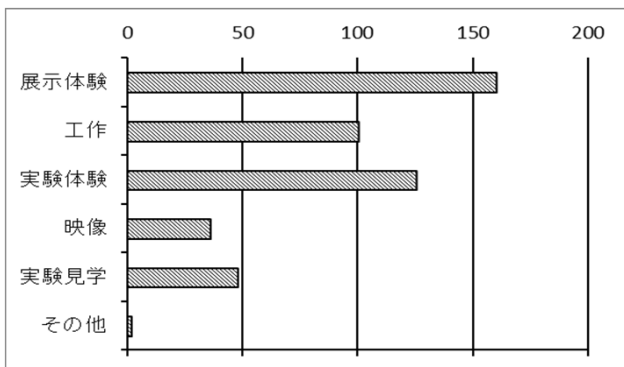
●図6は、年代区分毎にみた特別展全体の評価を示している。どの年代も「とても良かった」「良かった」を併せると80%を超えている。特に高校生からは「とても良かった」という評価が昨年度の約30%から約50%と大きく上昇している。

年代毎に詳しく見れば、少なからず違いがあり「とても良かった」という回答では低年齢層ほど高い比率となり、一般からの回答には「あまり良くなかった」という回答が見られた。理由としては「子どもにとって難しい」「解説員の対応が不十分」という意見が挙げられていた。今後の課題としてとらえていきたい。



●図7は特別展の中で興味をもったエリアについて尋ねたものである。「興味をもった」という回答が最も多かったのは、新素材を中心に展示した「テクノロジーステージ」であった。超撥水材や蓄光材など、実物を体験しながら学べる展示であったことが高い支持を集めたものと推察される。その他のエリアも大きな差は認められなかった。エントランスで低い数値となったのは、内容が幼児、小学生には難しいものであったためやむを得ない。

(3) 次年度以降に希望する内容・テーマ



その他、具体的な記述として—
 海と川・太陽のしくみや誕生・火などの実験・身近なもの・恐竜(複数)・植物(複数)・ドライアイスを使ったもの・震災復興・海の生き物(ダイオウイカ)・素粒子・宇宙(多数)・動物・天気・人体・ブラックホール・元素・ものができるまで・鉄道や新幹線をとりいれたもの・自由研究で使えるテーマ(複数)・色を使う実験・カブトムシをさわる体験・命のサイクル・標本づくり

